

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093000091		
法人名	医療法人 徳洲会		
事業所名	グループホーム あんしん (曙・霽(せい)月)		
所在地	〒818-0052 福岡県筑紫野市武蔵五丁目3番23号 Tel.092-918-6767		
自己評価作成日	平成30年02月12日	評価結果確定日	平成30年03月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel.093-582-0294		
訪問調査日	平成30年03月06日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業運営は、平成14年から行われている。平成26年3月に移転・新築(増床)を行って、まだまだ地域に向けて事業所から発信していることは少ないが、地域の行事等を通じて徐々に地域の方々に理解して頂いていると思われる。地域の方々や施設利用を考えている方々に、施設の概要や認知症の理解をして頂けるような施設になるようにと考える。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あんしん」は、18年前に開設し4年前に新築移転して2ユニット(定員18名)に変更したグループホームである。運営推進会議の参加委員の協力を得て、清掃活動に参加したり、ホーム見学や介護相談を受ける等地域との交流が始まっている。母体医療法人と訪問看護師、介護職員が連携し、かかりつけ医と協力体制を築き、利用者一人ひとりの健康管理は万全である。職員が交代で作る愛情たっぷりの料理は、味や彩り、盛り付けに工夫し、利用者と職員と一緒に食べる様子は楽しそうで、食欲増進に繋げている。また、家庭的な浴槽と機械浴槽を設置し、利用者が重度化しても安心して入浴出来る支援に取り組み、職員の入浴介助の負担軽減にも結び付いている。外出レクリエーションを定期的に企画し、買い物や花見、ドライブに出かけ、利用者が生きがいのある暮らしの支援に取り組んでいるグループホーム「あんしん」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に施設運営理念を掲示し、管理者、職員は、意識の統一を図っている。	ホーム独自の運営理念を見やすい場所に掲示し、職員一人ひとりが理念を理解し、利用者の尊厳と安全を守り、慣れ親しんだ地域の中で、生きがいを持って生活が送れるように支援している。また、職員会議や新人研修会の中で、理念について学ぶ機会を設け、常に理念を意識したケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、地域で行われる行事等に参加を行い、地域の方々とは短時間であるが過ごしている。事業所と地域の方々との日常的に交流を行う場がまだない。	新築移転して4年が経過し、利用者や職員は、地域の一員として清掃活動や行事に参加して、少しずつ地域交流が始まっている。運営推進会議委員の協力を得て、地域の高齢者の介護相談や認知症予防介護の啓発を通じて、地域との信頼関係を構築していくことを目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流もまだまだ不十分で、事業所から何かを発信する等まだ出来ない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2カ月に1回程度で行っている。事業所内の現状報告が主になっている状況。参加者からの意見を下に、事業運営に生かしているように行っている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、ホームの現状や利用状況、課題、ヒヤリハット事例等を報告し外部の目を通した参加委員からは、質問や要望、情報提供等が出され、ホーム運営や業務改善に反映させている。出された事案は検討し、次の会議で報告できるように取り組んでいる。	参加委員の増員を図り、地域で活動している、有権者、知見者、薬剤師等に声をかけ、会議の内容についても、報告だけで終わるのではなく、地域の課題にも対応出来るような柔軟な会議運営を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所内の問題や介護保険法の解釈等、施設の現状等、市役所担当者に相談、助言等頂いている。	運営推進会議に、行政職員や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状や取り組みを理解した上でアドバイスや情報を提供して貰い、協力関係を築いている。また、管理者は、ホームの空き状況や介護の疑問点、困難事例等を行政窓口と相談し、情報交換し連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人、事業所は、身体拘束に係る禁止事項を理解し、各職員に対しても勉強会や日々の業務で理解を得るように注意を行っている。施錠等、身近なことから拘束をしないように事業所内においては、管理者が中心となって各職員に助言、指導を行っている。	研修会を受講した管理者が、内部研修会の中で身体拘束廃止の取り組みについて、職員間で話し合い、スピーチロックや薬の抑制も含めた拘束が、利用者にも与える影響を理解し、禁止行為の事例を検証し、身体拘束をしない、させない介護の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者および職員は、介護保険法および関係法令を理解するように努め、業務の実践の中で活かしている。また、各職員同士で、利用者の言葉や振る舞いについても注意ができるように行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、数名の利用者の方が自立支援事業(社協)を利用している為、制度の内容を管理者が各職員に説明を行い、理解が深められるように行っている。	日常生活自立支援事業の制度活用の利用者があるので、職員は制度の内容を理解し、利用者や家族に説明している。制度を必要とする時には、内容や手続きについて分かり易く説明し、利用者の権利や財産が、不利益を被らない支援に取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・介護支援専門員が窓口となって、施設見学、利用予約を行っている。初回、面談から担当者ができるだけ変更しないように利用者、家族との信頼関係ができるように行っている。利用契約、解約等の一連の説明は、管理者ができるだけ行い、家族の不安や疑問やできるだけ少なくなるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は、日々の業務の中で各職員が意見や要望を話せる時間があり、毎日、話が出来ていると思われる。利用者家族とは、面会時に短時間であるが、管理者、職員が意見等を聞き、全体の会議等で反映を行っている。	日常会話の中から利用者の希望や要望を聴き取り、面会や行事参加の時に、職員が家族とコミュニケーションを取りながら、利用者の思いや生活状況、健康状態等を報告し、家族の意見や要望、心配な事等を聴き取っている。また、面会の少ない家族とはショートメールでのやり取りで要望や意見を聴き取り、ホームの運営や業務改善に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	以前から行っていたが、昨年、法人職員(2人)による職員の個別面談を実施し、法人、事業所、管理者への要望や意見の聞き取りを行い、事業所内の改善等に取り組んでいる。	毎月1回職員会議を開催している。職員の気づきや心配事は、朝の申し送りや業務中に話し合い、職員間で連携を取りながら介護の実践に取り組んでいる。また、法人本部職員による、介護職員の個別面談に取組む機会を設け、職員の悩みや心配事にも応えられる体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	以前から行っていたが、昨年、法人職員(2人)による職員の個別面談を実施し、法人、事業所、管理者への要望や意見の聞き取りを行い、事業所内の改善等に取り組んでいる。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人、事業所は、職員の採用にあたっては、何ら制限を設けていない。事業所および法人の一職員として、自覚持ち、その職員が有する能力が發揮できるように行っている。	職員の採用は年齢や性別、資格等の制限はしていない。管理者は職員の特長や能力を把握し、適材適所に役割分担して、職員が生き生きと仕事ができるように支援している。また、外部研修に職員を交代で派遣し、介護技術の向上と意識の高揚を図り、職員が意欲的に働きやすい職場環境に取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人(代表者)は、各職員に対して、勉強会や研修等を通じて、人権教育や人権の尊重等に取り組んでいる。事業所内では、管理者が中心となって、日々の業務を通じて注意を行い、利用者個々の人権尊重に取り組んでいる。	管理者は、利用者の人権を守る介護のあり方を職員と話し合い、利用者が安心して暮らせる環境を整えている。また、運営理念に、利用者一人ひとりを尊敬すると明示し、職員は常に理念を意識しながら、利用者一人ひとりに合わせた介護の実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人(代表者)や管理者は、職員採用後に研修期間を定め、その職員が日々の業務で能力が発揮できるように努めている。また、法人主催の勉強会や研修、外部の研修等への参加も、管理者が中心となって計画参加を促している。また、管理者が、ひと月ごとに個々の職員と業務についての振り返り(反省会)の時間をもち、スキルアップできるように行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は、管理者が同業者の運営推進会議に参加するなど相互の訪問を行っていたが、現状、行ってなく、昨年からは、法人内の相互訪問を徐々にやっている。今後は、同業者との交流も再度実施していければと考える。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	予約等の段階で、管理者、介護支援専門員が窓口となり、利用者やその家族から現状の問題や困っていること等の聞き取りを行い、整理し、担当者が出来るだけ変わることなく信頼関係を構築し、問題の解決に取り組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	予約等の段階で、管理者、介護支援専門員が窓口となり、利用者やその家族から現状の問題や困っていること等の聞き取りを行い、整理し、担当者が出来るだけ変わることなく信頼関係を構築し、問題の解決に取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所内では、管理者が窓口となり、必要としている支援を整理し、事業所だけのサービスに関わらず、他のサービスや他職種への対応を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	運営理念の下、全職員は、事業所の業務開始・終了の際に、利用者個々に挨拶を行い、その日一日がお互いにより良い時間になるように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所は、家族会や交流会等は行ってない為、職員の支援が十分に家族に理解されているか、疑問を抱えることもある。面会時等に、短時間であるが家族と職員が話し、徐々に理解を深めている状況である。今後は、介護支援専門員が中心となって、担当者会議で職員も参加を行う予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	管理者が、利用開始前に家族に説明を行い、できるだけ家庭での生活に近い状態(使い慣れた茶碗や湯飲み、タンス等)を勧め、また、友人の方の面会等もご家族の了解の下行って頂いている。また、病院受診の帰り等、ご本人の思い出の場所等通るなど行っている。	友人や知人、近所の方の面会を歓迎し、落ち着いてゆっくり話せる場所や、お茶等を提供して、また来ていただけるようお願いしている。利用者の馴染みの行きつけの店で買い物を楽しんだり、好物を買って帰る等、利用者が長年築いてきた人間関係や地域社会との関わりが、ホーム入居で途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	限られた空間であるが、各ユニットで過ごす時間や全体で過ごす時間など工夫して、利用者個々が顔なじみになるような時間を取るように行い、各利用者が相互に関わるような場面が多くみられるなっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が窓口となり、契約終了後も必要あれば、本人や家族の相談、助言を行っている。また、必要であれば行政や地域包括支援センター等へ連絡、相談を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者、職員が日々の業務の中で、短時間であるが、利用者個々と談話を行い、体調管理はもちろんのこと、昔の話や今現在の思いや意向を聞き取れる場面があり、次の支援に活かしている。また、その職員からの情報は、他職員や管理者に報告を行い、情報共有を行っている。	利用者や家族から、入居時に利用者の生活環境、人間関係等を聴き取りアセスメントに記録して、職員間で共有し、日常のケアに反映させている。意志の疎通が困難な利用者には、家族に相談したり、職員間で話し合い、職員が利用者に寄り添い、表情や仕草から思いを汲み取る工夫に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前後に、管理者や介護支援専門員が状況把握に努め、また、サービス提供後、一定の時間が経過して再度、本人・家族等に聞き取りを行い、各職員と情報共有に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、一日通して利用者個々の状態把握に努め、申し送りや記録で情報交換を行い、個々の今の状態把握を行っている。職員は、日々の状態把握を行うことで、利用者の食事量の低下や発熱時などの異変に対応し、必要な受診等を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員が中心となって介護計画の作成にあたっているが、計画書のサービスが実際の介護業務に連動していることが少なく、現状に即した介護計画となっていないと思われる。今後は、介護計画作成にあたって介護職員との意見交換も必要で、現状に即した計画書になるように行っていきたい。	利用者や家族と話し合い、意見や要望、気になる事を聴き取り、介護支援専門員が中心となって、介護計画を定期的に作成しているが、現場の職員の意見や気づきが反映出来るように工夫し、利用者本位の介護計画が作成される取り組みを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づき、個別記録、職員相互の情報共有は出来ているが、介護計画の見直し等の作成にすべてが活かされてなく、また、実践と計画書が別物になっている状況がみられ、今後、さらに計画書作成にあたっては、全職員で意見を統一して関わりたい。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者、職員は利用者、家族の支援の中で、その状況を確認し、その都度必要なサービス提供に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	管理者、各職員は介護保険サービスやそれ以外のサービスの理解し、必要なサービスがあれば、利用者や家族に説明を行い、了解して頂いて利用者個々が、楽しめるように行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者が、利用開始前に家族、本人に説明を行い、できるだけ以前からの担当医師をかかりつけ医にできるように行っている。また、管理者は、担当医師にサービス開始の説明を行い、今後の治療方針等の説明を受け、必要あれば、家族に説明を行っている。	利用者や家族の希望を優先し、馴染みのかかりつけ医の受診を家族と協力して行っている。管理者は、かかりつけ医と常に、利用者の医療情報を共有し、信頼関係を築いている。週2回の訪問看護師と介護職員が協力し、利用者の小さな変化も見逃さず、早期発見、早期治療に取り組み、利用者の健康管理は充実している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、個々の利用者の健康状態に注意を行い、利用者の個々の変化を見落とす事がないようにし、訪問看護(週2回)との情報交換を行い、訪問看護からの助言等で、医療面での支援を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が窓口となって、利用者の入退院に伴う家族の不安の解消や、病院との連携にあっている。入院中は、適宜、管理者、職員が面会を行い、状態把握に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者が、事業所内で出来ることや出来ないことを契約時に本人・家族に説明を行い同意を得ている。また、必要な医療等については、本人の情報を下に訪問看護の助言などから適切な医療が受けられるように支援を行っている。	ターミナルケアについて、契約時に利用者や家族にホームで出来る支援について説明し、了承を得ている。利用者の重度化が進むと、家族と密に連絡を取りながら、主治医も交えて今後の介護方針を確認し、関係者と方針を共有して、利用者の重度化や終末期に向けた支援体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所は、マニュアルを作成し、各職員に周知を図り、対応できるように行っている。また、24時間コール体制で、管理者、介護支援専門員が対応できるように整えている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した訓練は従来行っているが、非常災害時を想定した訓練の取り組みがまだ行っていない状況で、今後、法人とも協議し、早急に取り組みきたい。	年2回避難訓練を実施し、通報装置、消火器の使い方の確認と避難経路、非常口、避難場所等を確保し、利用者が安全に避難出来るように取り組んでいる。また、防火意識の徹底に取り組み、火を出さないためのチェック体制や防火体制を整えている。	火災訓練は行っているが、特に夜間の避難訓練に重点を置き、利用者を安全に避難誘導出来るよう、職員が体で覚えるまでタイムを計り、繰り返しの訓練が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員は、事業所の運営理念を理解し、日々の業務を行い、各利用者の人格の尊重やその人らしさを大切することを職員相互で注意を行っている。	日常生活の中で、利用者のプライバシーが尊重される介護について、職員間で話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮し、トイレや入浴時の声掛けや対応に注意し、利用者が安心して暮らせる支援に取り組んでいる。また、利用者の個人情報や、職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、周知徹底が図られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各職員は、利用者個々への働きかけの中で、本人の思いを確認すること忘れないように本人に言葉を掛けるように行っている。また、管理者は、各職員に迷いがある場合は、選択権利は利用者本人にある旨説明を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所内の一日の流れがあり、利用開始前に管理者が説明を行い、利用者・家族から同意を得ている。利用者個々の状況に応じた対応がすべて出来ている状況ではないが、できるだけ利用者個々に説明を行い、本人の希望を聞き入れて行っている状況である。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々が、その人らしく生活できるように、職員がすべてを支援することなく、その利用者個々ができるだけ意思決定を行って頂き、職員はその補足を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることが一番と云った利用者の方も多く、また、職員も一緒に食事を行うことで、共通の時間を過ごすことで、より一層信頼関係が強くなる。また、利用者の方によっては、調理や食事の後片付けなどを職員と行うことで、何か自分も役に立っている職員もいつもと違う利用者の方の場面がみられている。	利用者が楽しみにしている食事は、利用者の力の発揮や他の利用者や職員とコミュニケーションを図る機会と捉え、利用者の残存能力に合わせ、下拵えや盛り付け、後片付け等手伝ってもらい、食事の献立を決めたり、味見をしてもらおう等、作る喜びと、食べる楽しみを味わいながら楽しい食事の時間である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	契約前に管理者、介護支援専門員が情報収集を行い、各職員と情報共有を行い、必要あれば、担当医師から説明を受け、利用者個々の状態に合わせたサービス提供を心掛けて行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	契約時に管理者が健康所帯の確認を行い、必要あれば訪問歯科の診察を勧めている。また、日々の支援は、毎食後、各利用者に声掛けを行い、口腔ケアの支援を行っている。訪問歯科週1回の利用も行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	契約時に管理者が確認を行い、各職員と情報共有をし、できるだけ施設利用前の状態が維持できるように行っている。安易な排泄の習慣の変更はしないように、また、変更しなければいけない状況では、本人、家族に管理者が説明を行い、了解の下行っている。	利用者が重度化してもトイレでの排泄を基本とし、職員は、利用者の排泄チェック表や生活習慣を把握し、タイミング良く声掛けし、失敗の少ないトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間も利用者の希望を聞きながら、トイレ誘導を行い、オムツやリハビリパンツの使用量の軽減にも取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各職員は、一日の水分摂取量や食事摂取量を確認し、記録を行って本人に説明を行うなどして、スムーズな排泄ができるように心がけている。また、困難な場合は、医師の指示の下服薬等実施している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事業所は、入浴時間を決めて時間内で入浴を行っている。各利用者の方に説明を行い、また、身体の状態等考慮して、一日数名の方の入浴を行っている。入浴時は、本人に説明を行い、本人が納得して行って頂き、安全な入浴で楽しんで頂けるように各職員が注意をして支援している。	入浴は、毎日(10時～16時)行い、職員は利用者その日の状態や利用者の希望を尊重した入浴を支援している。湯船にゆっくり浸かってもらい、利用者が楽しい気持ちで入浴出来るように、一日数人ずつ実施している。また、入浴は利用者と職員がゆっくり話せる機会と捉え、利用者の思いや意向を聴きだしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	事業所は、一日の流れを作成して、契約時に説明を行っている。ご本人の身体等考慮して、適宜、職員が安静を促している状況。また、夜間については、消灯時間後は、個別に居室内を職員が時間毎に確認し、安心して睡眠できるように行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、勉強会や研修等に参加し、認知症以外の疾病について基礎知識を学ぶとともに、服薬についても利用者個々の服薬を説明書等で確認、また、その副作用等も確認を行っている。また、管理者は受診時の状況や担当医師からの説明を事業所内で行い、職員と情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各職員は、利用者の情報を得て支援を行っているが、利用者個々の談話の中で、情報にないお話を聞くことがある。また、家族も知らない話も聞くことがある。支援には、まだまだ結びついていない状況。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所は、利用者個々の希望に沿った外出の支援は、十分に出来ていない状況である。どちらかといえば、家族の協力が大きい。今後、事業所全体で検討して改善していければと思う。	気候の良い時期を利用して、毎月外出レクリエーションを利用者の希望を聴きながら、花見や買い物、公園、ドライブ等に出掛け、利用者の気分転換を図っている。また、病院受診の帰りにドライブしたり、家族の協力を得て外出して貰い、利用者の楽しみなひと時である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時に管理者が確認を行っているが、お金の管理は、ほとんどが家族が行っていて、本人が所持することはほとんどない。外出等で、職員と一緒に本人が使用できるように今後取り組みたい。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者数名は、携帯電話の使用や家族・友人に手紙等で連絡を行っている。事業所も特に制限はなく、必要あれば家族に説明を行って、利用者の方は使用している状況。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は、中央部分から左右対称に作られていて、ユニット毎に分かれているが、ユニット間の間仕切りは特別な事情がない限り閉めてなく、利用者がいつでも行き来できるようにしている。施設内はバリアフリーでほぼ段差がない状況。天窓から自然光を取り入れ、食堂兼居間は、外の景色が見える配置となっている。	リビングルームでは、仲の良い利用者同士が談笑したり、職員と一緒にゲームや体操で盛り上がり、明るい雰囲気の良い共用空間である。利用者の安全に配慮し全館バリアフリーを設置して、音や照明、温度や湿度、換気にも注意し、清掃が行き届いて清潔でアットホームな雰囲気の生活空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内は、天井が少し高目にしており、照明がぼんぼりの為、空間が広く感じられるつくりで、利用者の方がゆっくりくつろげる空間になっている。食堂兼居間で利用者の方が、ゆっくり新聞を読む場面もみられている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	決して広い空間でなく、またクローゼット等設置していない為、持ち込む物は限られるが、契約前に管理者が本人・家族に説明を行い、自宅で使い慣れた品物を持参するようにして頂いている。また、茶碗やお箸、湯飲み等も持参頂くように説明を行っている。	利用者が大切にしている使い慣れた、筆筒や机、椅子、鏡、電気製品、家族の写真、仏壇等を持ち込んで、生活環境が急変しないように配慮し、自宅と違和感のない雰囲気にして、利用者が不自由なく、安心して穏やかに暮らせる、清潔で明るい居心地の良い居室になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、バリアフリーの作りとなっている。利用者が安全、安心して生活が出来るようにとの思いである。また、必要最小限度の手すりの配置や各居室のナースコールも設置している。		